

## 第 18 回 電磁界情報センター運営委員会 議事録（案）

1. 日 時：平成 28 年 9 月 29 日（木）15 時～17 時
2. 場 所：全日電工連会館 3 階会議室
3. 出席者：木下委員長、日和佐副委員長、衛藤委員、小島委員、原委員、  
飛田委員、山根委員  
(事務局)一般財団法人電気安全環境研究所 尾崎専務理事  
電磁界情報センター 大久保センター所長
4. 議事次第：
  - (1) 定足数の確認報告
  - (2) 専務理事挨拶
  - (3) 【審議】第 17 回電磁界情報センター運営委員会 議事録の承認について
  - (4) 【報告】平成 27 年度予算執行状況について
  - (5) 【審議】平成 28 年度業務計画について
  - (6) 【審議】平成 28 年度予算について
5. 配布資料：
  - ・運営 18-1 運営委員会 委員名簿
  - ・運営 18-2 第 17 回電磁界情報センター運営委員会 議事録（案）
  - ・運営 18-2 付 第 17 回電磁界情報センター運営委員会でのご意見への対応
  - ・運営 18-3 平成 27 年度予算執行状況
  - ・運営 18-4 平成 28 年度業務計画（案）
  - ・運営 18-5 平成 28 年度予算（案）
  - ・参考 電磁界情報センター運営委員会規定

### 6. 議事内容：

#### (1) 定足数の確認報告

電磁界情報センター運営委員会規程第 5 条第 2 項にもとづき、運営委員 7 名中、出席の委員 7 名であることから、第 18 回運営委員会は成立した。

#### (2) 専務理事挨拶

本日はご多忙のところ運営委員会にご出席頂き感謝申し上げます。委員各位には、平素より電磁界情報センターの業務につきまして、種々ご助言を賜っていることに対して改めて御礼申し上げます。センターの運営は、本運営委員会の審議によって定まっていくので、本日も忌憚のないご意見を賜りたい。

### (3) 第17回電磁界情報センター運営委員会 議事録の承認について

#### 【審議】

事務局より、資料運営 18-2、資料運営 18-2 付について説明があった。

【質疑】主な質疑は以下のとおり。

(委員) 資料運営 18-2 付の分析結果について、リスクコミュニケーションの専門家である委員長に伺いたい。電磁波の健康影響が心配な人が、心配する必要がないと言われて余計否定的になるというのはあると思うが、そのような人でも相手が誠実をもって接してくれば、「あなたのことは信頼できますよ」ということはあり得るので、この分析だと、まだ足りない面もあるのではないか。その点について、専門家から見たらどうなのか教えて欲しい。

(委員長) この質問は、いわば表面的なことしか聞いておらず、「変わった」といっても変わり方の内容は分析されていない。今の質問のようなことを調べようとすれば、あらかじめそれをアンケートの中に組み込んでおかないと、あとからでは分析できない。

「態度が変わる」「変わらない」というようなことは、例えば5段階の尺度があって、「非常に賛成」から「非常に反対」までであるとすると、両端にある人というのは、もともと態度が強い人で一般的には変わりにくいという傾向がある。一番変わりやすいのは、「どちらとも言えない」という、いわば意見がない人は影響されやすく、このデータも「どちらとも言えない」という人が変わっている率が一番高くなっている。

それから、「安全だ」と思っている人も、安全の認識というものが非常に表面的なもので、「大したことはない」というふうに内容なしに考えているような人もいる。けれども、セミナーで安全にもいろいろレベルがあって非常に強いものは影響があると、こちらのほうから言わばリスク的に正しい情報としてプラスマイナス両方聞かされ、初めて聞くマイナスのことにびっくりして、今まで無邪気に安全だと思っていたがそういう面もあるのか、というので不安が増えたということはある。

しかし、それを調べようとすれば、調べるための質問をあらかじめ組み込んでおかなければならない。もしくは、あとからその人たちを個別に集めて、直接個人的に心の内部の話聞き出すということをしないと、表面的な分析だけではわからないところが残っているのは事実である。

(委員) その点は分かったが、そうするとこれから心配な人が来ても、信頼されるためには何をすればいいか。大事なものは、そのためにどうすべきというヒントみたいなものはあるのか。

(委員長) 「正しく怖がる」ということである。理屈なく怖がるというのは、感情的で、無知な怖がり方であり、それは世間だけではなくて、ご本人にとっても不幸である。けれども、危険なものをやせ我慢で「安全だ」というふうに自分に思い込ませるのは、これはまた良くない。

よって、本当に危険なものは危険、しかし危険でないものは危険でないというふうに正しく選別するような思考様式が要るのであって、こちらが協力すべきことはそういうことではないか。

(委員) 確かに、関心が高まったために逆に「あ、心配な面もあるかも」というふうに認識するようになったということもあるのではないかと思う。

それともう一つは、そもそも大変心配に思っていてセミナーに参加したが、内容が難しく十分理解できなかった。そういう場合も何となくまだ心配だなと思って、否定

的な回答をするなど、いろいろな場合があるのかなと感じた。

(委員) アンケート結果から読み取れることとして、まず、全体のアンケートの結果を見ると、「わからない」という人が終了後は減っている。

それから、クロス集計について、回答の一貫性がどうかということを見ると、「信頼できる組織だ」ということに関しては、「全くそう思わない」という人は終了後も「全くそう思わない」となっており、それはそれで一貫しているが、「そう思わない」という人が「そう思う」に変化してしまっているから、その一貫性は何とも言えない。

その次の「専門性のある組織である」ということに関しては、これは一貫性ということとは全然言えない。「全くそう思わない」とか「そう思わない」という人が終了後同様な回答をしていないということが見えると思う。

それから、「公正・中立な立場で情報提供している」「市民とのコミュニケーションを大事にしている」は、ある程度、「全くそう思わない」とか「そう思わない」という人が終了後もこういうネガティブな傾向の回答をしている、一貫性が読み取れると思う。

(委員) 分析した結果を見て、直感的に思うことは、不安を抱いている方が、あれもこれも考え始めると自分を取り巻く周辺の状況がわからない。置かれている状況を把握するための情報が十分でなかったということで、なお疑問は残るという、そういう考え方もできるのではないかと推理していた。

それはどういうことかという、セミナーの内容が、自分の意に沿わないという面もあるのかもしれないが、得られた情報が自分の生活環境とどのような関係があるかという、自分の生活環境と比べたときの情報がやや不足していて、それが思惑だとすると、心配している状況が解消されないということにつながったと推理していた。結論的に申せば、心配している方々にとって情報が身近なものでない部分があったのではないかと。理論的なことを教えてもらっても、その辺の溝を埋めるにやや不足していたのではないかと思う。

(事務局) 委員長にお尋ねするが、あるリスク認知なり、信頼性など、今回の場合にはセミナーを受講して、207名中15名、約1割未満の人たちが、かえって期待したものと逆の方向に行くという結果となっているが、このような状況が、一般論として講演会で起こり得るのか。

(委員長) それは先ほどと同じ話になるが、最初の無邪気な賛成が、「ああ、そういう意味では怖いことがあるんだ。私の不勉強だった」という意味であれば、ある意味、正しい認識に変わったわけなので、それはリスコミの成果である。ネガティブに言っているけれども、正しく怖がってくれたという意味ではプラスである。

従来態度変化の分野の理屈からすれば、こちらが唱導しようとする方向と逆にいったわけであり失敗だということになるが、リスコミの立場からすれば、「正しく認識してもらおう」「正しく怖がってもらおう」ということであり、その意味では私はプラスと考えたほうがいいと思う。ただ、それがほんとうにそういう人たちであるのかどうかは、このデータからはわからない。

(委員) 一つ気になるのは、「市民とのコミュニケーションを大事にしている」に対する「そう思わない」が2倍になっているという点である。コミュニケーションを大事にしていると感じた人が増えたということであり、会場に来て、「電磁波が危ない」と思っている人たちの意見を聞いてくれなかったという意味なのかどうか、その人たちに耳を傾けて議論すればよかったのかどうかは、このデータからはわからないが、コミュニケーションは一生懸命やっているはずなので、ここが増えてしまったことは気になる。

このアンケート結果から、次回に活かす教訓があるのかどうか。次回からこういうふうにやりましょうということが言えれば一番いいと思うが、主催者のほうで気づいた点はあるか。

(事務局) これまで電磁界情報センターを知っている方にも、初めてという方にも同様のアンケートをとっている。

アンケートでは、知っている方は、電磁界情報センターの活動に対する評価を回答して貰っているが、初めての方は、よくわからない状況での期待値というような意味で回答いただいていると推察される。初めての参加者は、コミュニケーションを大事にしているかどうかに対しては「わからない」と答えるべきだが、当方の設問設定に問題があると反省している。

(委員長) 毎回参加されている方はどの程度か。

(事務局) 8割から9割が初めて参加されている。

(委員長) 毎回参加される方は、どういう人が多いのか。

(事務局) 毎回参加される方はほとんどいないので、良く分からない。

(委員) 可能であれば、何故そう思うか、という理由を書いてもらうようにしてはどうか。

(事務局) 承知した。今後、アンケートについても一度練り直したい。

(委員) アメリカの科学アカデミーが今年の5月に遺伝子組み換え作物の報告書をまとめたが、遺伝子組み換えに否定的な弁護士や社会学者等にも意見を聞いてまとめている。結論は「問題ない」ということであるが、否定的な意見についてもインターネットで読めるようになっている。

座長を務めた方にインタビューした時に「一番大事なことは何か」と聞いたところ「クローズしない」という回答であった。それを聞いて、日本でもそういうことができるのかなと思ったので紹介させていただく。

(事務局) これまで実施したフォーラムやセミナーの議事録には、反対意見とか様々な意見を全部そのまま載せてある。

**【審議結果】** 第17回運営委員会議事録について、了承された。

#### (4) 平成27年度予算執行状況について

**【報告】** 事務局より資料運営18-3について説明を行った。

**【質疑】** 特に質疑事項はなかった。

#### (5) 平成28年度業務計画について

**【審議】** 事務局より資料運営18-4について説明があった。

**【質疑】** 主な質疑は以下のとおり。

(委員) 各種学術集会でも電磁界の健康影響に関するランチョンセミナーでのアンケート調査は行っているか。また、会場のインプレッションはどのような状況か。

(事務局) アンケートは、これまで実施しておらず今年度から始めているが、集計中であり結果

は出ていない。

ランチョンセミナー参加者の大部分は学者・研究者なので、電磁波の健康影響に対する心配度で言うと、多くの参加者があまり心配されていない。しかし、参加者の知的レベルは高く、定量と定性ということも区別がよくわかっているのので、この様な方々を介してWHOの見解を説明していただくことで一般からの質問者（国民）に対して電磁界の健康影響に関する正しい理解ができていくものと期待している。

(委員) 臨床の場では患者さんたちから聞かれた時に自信を持って説明できるようになるというのは大きいと思われる。

(事務局) 一回のセミナーでそこまでは難しいと思うが、「電磁界情報センターという組織があるのでそこに聞いてごらん」と誘導して貰うと有り難い。

(委員) 学術論文検索 EMF-Portal のサイトは、便利で有用と思われる。詳細情報の日本語訳は、アブストラクトあるいは全訳どちらか。

(事務局) 全訳すると著作権の問題があるので、論文の概要を記載している。なお、初めての方への理解促進のため、翻訳済みの専門用語にリンクするようにしており、データベースの詳細な情報提供を可能にしてある。

(委員) 一般の方が読んでもわかるような文章になっているということではいいか。

(事務局) そのように努力している。

(委員長) 有用だと思われるが、一般の人たちが EMF-Portal の存在を知っているか。つまり、一般の人に対して広報をしておられるのかどうか。

(事務局) 講演会での紹介とホームページで掲載している。

(委員) どのくらい集まるかわからないが、記者会見を実施してもいいかもしれない。記者たちも参考になるサイトだと思われる。

(事務局) 承知した。ぜひ企画したい。

(委員) 情報の媒介者を対象とした情報提供活動について、一番重要なのは、マスコミ関係と思われる。

マスコミによる非科学的なエモーショナルな報道がきっかけで問題が大きくなっている。これはやはりマスコミ関係に、エビデンスはどうなのか、根拠は何だ、というところをしっかりと対話をするようなことをしていく必要があると思われる。

(事務局) 以前の委員会でイギリスにはサイエンスの情報をメディア向けにきちんと解説するサイエンスメディアセンターがあるとの紹介があった。

日本でもサイエンスメディアセンタージャパンという組織が早稲田大学で設立されており、これに協力する専門組織として電磁界情報センターを登録した。今後はサイエンスメディアセンタージャパンから電磁界情報センターにも問い合わせが有ることを期待している。

(委員) 3 ページ「コンサルタント会社との情報配信契約による情報収集」との記載があるが、コンサルタント会社とはどのようなところか。

(事務局) 情報調査を行う会社と契約しており、主に海外の政府系あるいは研究機関の発表内容などを定期的に確認している。

我々自身でも確認しているが、情報量が膨大であり、一部をコンサルタント会社に委託して情報収集している。

(委員) 5 ページに「各分野の専門家との関係による専門的な問合せに対する対応実施」との記載があるが、日常的につながっている機関とか個人というのはどのくらいあるのか。

(事務局) 電磁界情報センターには国外の Rapid Response Group 以外に、国内の専門家ネットワ

ークを組織している。国内の医学、電気工学、公衆衛生あるいは心理学などの専門家がメンバーで、必要に応じて記事を執筆依頼したり、問い合わせをしている。

(委員) 8 ページに「業務削減による効率的な業務運営」との記載があるが、どのような業務を削減しているのか。

(事務局) ある業務を取り止めるということではなく、効率的に業務を実施している。例えば、これまで依頼講演会は 2 名で対応していたが、会場準備等は先方で行うので、1 名で対応し旅費の低減を図るなどを行っている。

(委員) 16 ページに「マタニティマークとのタイアップによる広告」との記載があるが、どのような広告か。

(事務局) 厚生労働省が推奨しているマークで、妊産婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮をしやすくするマークがある。そのマークが記載された広告であればより妊婦が関心を持つものと期待される。

電磁界情報センター所在地の沿線である地下鉄三田線の優先席の付近に、「電磁界に関する正しい情報はここを検索すればわかります」という内容の広告掲載を計画している。

【審議結果】平成 28 年度業務計画について了承された。

#### (6) 平成 28 年度予算について

【審議】事務局より資料運営 18-5 について説明があった。

【質疑】特に質疑事項はなかった。

【審議結果】平成 28 年度予算について了承された。

#### (7) その他

次回開催の日程は以下のとおり。

- ・平成 29 年 3 月 9 日(木) 15 時～17 時

以 上